

南武

自動車やアルミダイカストの金型向け油圧シリンダーなどで世界でも高いシェアを持つニッチ（隙間）のトップ企業、南武が横浜に帰ってきた。本社工場を東京・大田から横浜市金沢区の工業団地に移し、5月から本格稼働を始めた。海外の工場に対して生産技術などを提供する「マザー工場」としての位置づけを強くし、グローバル化を押し進める。

新本社工場は、東京湾に面する横浜シーサイドラインの福浦駅と市大医学部駅の間、工業団地内に位置している。5月のゴールデンウィーク明けから稼働を始めた。

神奈川のエンジン

油圧シリンダー首位



南武は油圧シリンダーで国内シェア7～8割を握る（横浜市金沢区の新本社工場）

《会社概要》

▽本社 横浜市金沢区福浦2の8の16
 ▽設立 1965年
 ▽売上高 約26億円（2014年9月期）
 ▽従業員数 約110人（パートなど含む国内）

が、増築を繰り返して工場が分散しており、生産効率が悪かった。加えて、羽田空港の国際化で周辺にマンション建設などが相次ぎ、工場の騒音問題なども出て

取得した。同社は1965年の設立で、油圧シリンダーでは日本の元祖だ。創業者が横浜の鉄工所の次男として生まれ、かつて本社工場を置いて、10年には中国で工場をたつともあるなど、横浜と縁が深い。現在の伯英社長は3代目にあたる。油圧シリンダーの国内シェアは7～8割、製鉄業界などの鋼板巻き取りに使う「ロータリージョイント」という製品ではアジアや北米でのシェアが7割に達する。経済産業省も「グローバルニッチトップ」企業として認める。横浜金沢区の新本社工場はグローバル化を進めるシリンダーでは溶けた高温のアルミが金型から離れやすくするよう耐熱性などの条件を満たしつつ、職人の手による工程も多い。関

海外展開のマザー工場に

工場には工作機械とともに、シリンダーなどを構成する部品が所狭しと並ぶ。延べ床面積は約2200平方メートルで投資額は約7億円。工場には「何十年に1度の投資をし、10年間は稼働する」と野村伯村社長と、従業員が通いやすい物件を探すなかで、沢区の中古工場を見つけ、

が、増築を繰り返して工場が分散しており、生産効率が悪かった。加えて、羽田空港の国際化で周辺にマンション建設などが相次ぎ、工場の騒音問題なども出てきた。「時代の交差点にあらがっても仕方がない」（野村社長）と、従業員が通いやすい物件を探すなかで、沢区の中古工場を見つけ、取得した。同社は1965年の設立で、油圧シリンダーでは日本の元祖だ。創業者が横浜の鉄工所の次男として生まれ、かつて本社工場を置いて、10年には中国で工場をたつともあるなど、横浜と縁が深い。現在の伯英社長は3代目にあたる。油圧シリンダーの国内シェアは7～8割、製鉄業界などの鋼板巻き取りに使う「ロータリージョイント」という製品ではアジアや北米でのシェアが7割に達する。経済産業省も「グローバルニッチトップ」企業として認める。横浜金沢区の新本社工場はグローバル化を進めるシリンダーでは溶けた高温のアルミが金型から離れやすくするよう耐熱性などの条件を満たしつつ、職人の手による工程も多い。関

取得した。同社は1965年の設立で、油圧シリンダーでは日本の元祖だ。創業者が横浜の鉄工所の次男として生まれ、かつて本社工場を置いて、10年には中国で工場をたつともあるなど、横浜と縁が深い。現在の伯英社長は3代目にあたる。油圧シリンダーの国内シェアは7～8割、製鉄業界などの鋼板巻き取りに使う「ロータリージョイント」という製品ではアジアや北米でのシェアが7割に達する。経済産業省も「グローバルニッチトップ」企業として認める。横浜金沢区の新本社工場はグローバル化を進めるシリンダーでは溶けた高温のアルミが金型から離れやすくするよう耐熱性などの条件を満たしつつ、職人の手による工程も多い。関

神奈川

横浜支局 0445-2201-2551
 川崎支局 0445-2221-7793